



大豊工業株式会社
証券コード 6470

第110期 中間報告書
2015.4.1～2015.9.30

CONTENTS

連結業績ハイライト／株主の皆様へ
「VISION 2015」の推進
持続的成長を目指して
決算概要
株式概況／会社概況

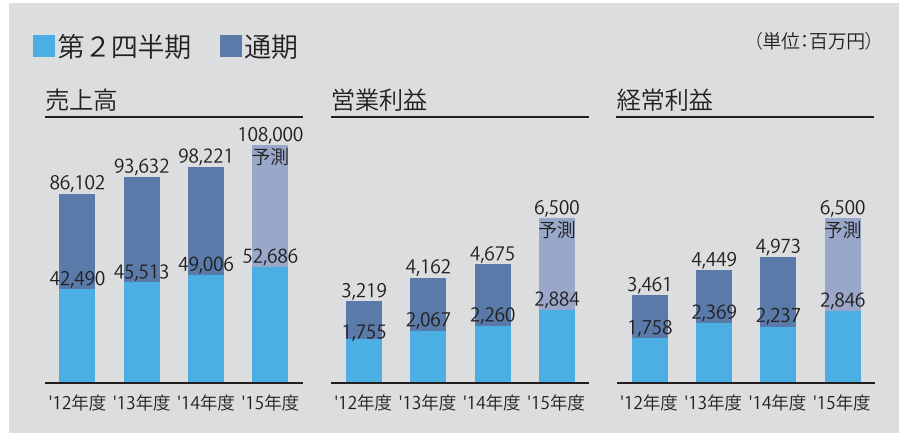
連結業績ハイライト

■ 第2四半期実績

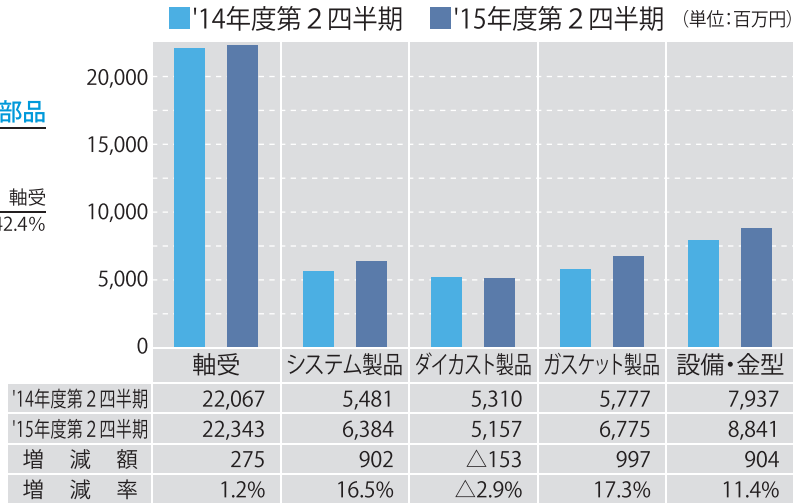
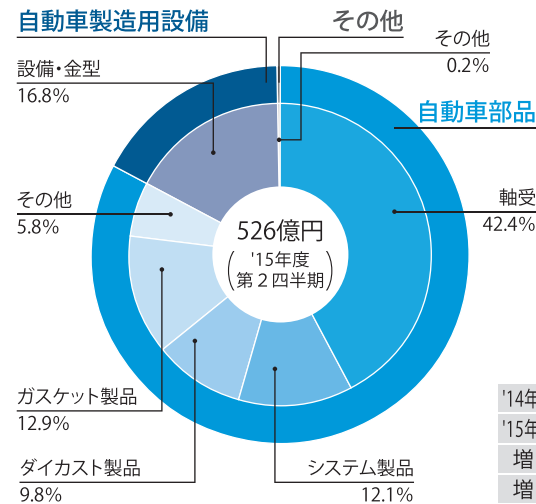
売上高 526億円
 営業利益 28億円
 経常利益 28億円
 親会社株主に帰属する四半期純利益 16億円

■ 通期予測

売上高 1,080億円
 営業利益 65億円
 経常利益 65億円
 親会社株主に帰属する当期純利益 31億円



■ 事業別売上高



株主の皆様へ

株主の皆様には、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
 2015年度中間報告にあたり、ご挨拶申し上げます。

【取り巻く環境】 新興国経済成長の鈍化

当上半期におけるグローバル経済は、米国・欧州等の先進国は堅調に推移したものの、中国やアセアン諸国などの新興国の成長の鈍化が明らかとなりました。

わが国経済も企業収益の改善傾向が続く、緩やかな回復基調が継続してまいりましたが、新興国経済の減速による世界経済の下振れリスクや、米国の利上げへの懸念などを受け、景気先行きにも不安感が高まりつつあります。

グローバル自動車市場も同様に、中国・アセアン諸国で前年に比べ大きくマイナスし、国内においても昨年まで市場を牽引してきた軽自動車が税制改正により大幅減少するなど、販売の状況は「まだら模様」であり、下期の動向は予断を許さない状況であります。

【2015年度 上半期実績】 新規受注の増加により、 増収増益を確保

当社の上半期実績は、上記のようなグローバル経済の減速下でも、軸受およびシステム製品、ガasket製品の増収増益、設備需要の回復に支えられて、売上高526億円(前期比7.5%増)、営業利益28億円(同27.2%増)、経常利益28億円(同27.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益16億円(同17.7%増)と増収増益を確保することができました。

【2015年度 通期見通し】 新製品のスムーズな立ち上げと 生産性向上により、 過去最高業績を目指す

2015年度下期は中国・アセアン諸国の減速基調が継続・拡大し、市場全体では期初の予想を下回るものと思われませんが、当期は2013年4月に公表しました「2013-15年度中期経営計画」の仕上げの年に当たり、中国では新工法軸受の新たな生産ラインが立ち上がり、国内では新製品の立ち上げ準備も進められております。

これらの確実な立ち上げを行うと同時に、継続して全社全部門での合理化・生産性向上を進め、プロジェクトの成果の刈り取りや、新製品開発、拡販、原価低減活動にグループの総力を挙げて取り組み、過去最高に迫る業績の実現に努めてまいります。

【将来に向けて】 トライボロジーをコア技術とし、 環境・社会に貢献する製品を 迅速に生み出しグローバルに お客様へお届けする

グローバルな自動車市場は中国・アジア圏の成長が鈍化したものの、依然として新興

国を中心に拡大を続けるものと考えます。その対応として、新興国市場での価格競争力確保と地球環境保全のための新製品提供の重要性が一層高まっていくと認識しております。

この環境変化をビジネスチャンスととらえ、昨年度策定したVISION2020を具現化するため、次の「2016-18年度中期経営計画」の準備に入りました。

先の中期経営計画の最終年度である今期を確実に成し遂げ、次期中期経営計画がスムーズに始動できるよう一層取り組みを加速させ、持続的な成長を目指してまいります。

株主の皆様には、引き続き、ご支持・ご鞭撻をお願い申し上げます。

2015年11月
 代表取締役社長 杉原功一



中期経営計画 (2013~2015年度)

● 中期経営方針

～ 信頼されるグローバル企業を目指して～

- ・ 強固な経営基盤のもと、継続的に新技術・新製品を開発する
- ・ 迅速な海外生産展開により良品廉価製品をグローバルに提供する

「VISION 2015」の推進

当社が常に発展し続けていくための目指す姿として「VISION2015」を掲げて6年が経過しようとしています。

この間、リーマンショック、国内市場の縮小と新興国の台頭、環境対応の多様化など、日本を含め世界の自動車産業は大きく変化しました。

この局面を「VISION 2015」の推進により、大豊工業そして大豊グループは大きく変化・成長をすることで乗り切り、リーマンショック以前に達成した過去最高の売上に迫る勢いで、業績を伸ばすことができました。

2015年度は「信頼されるグローバル企業を目指して」とする中期経営計画と「VISION 2015」の終結の年となります。

ここでは、その経緯を振り返り、「VISION 2020」への導入とします。

「VISION 2015」



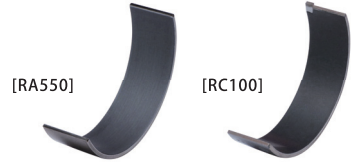
「VISION 2015」始動

「VISION 2015」は2010年度から3年間で成長基盤の確立期、後の3年間で達成に向けた飛躍期と位置付け活動を展開しました。

始めに着手したことは、拡販・新製品開発・工場刷新などの優先課題解決に向けたプロジェクトの設定と、意思決定のスピードアップや機能連携を活性化させるための組織の大括り化、執行役員制度の導入など組織基盤の整備でした。

技術革新と新製品

技術革新に関するプロジェクトは当社のコア製品である軸受を中心に、樹脂コーティング、金属オーバーレイなどの材料革新、異物排出などの設計革新を生み出し、世界的に高く評価されシェアを伸ばしました。



新コーティング材料「RCシリーズ」とコーティング方法を刷新した「RA550」

システム部品に関しても、メカニカル式のEGRバルブやバキュームポンプなど従来からの技術に加え、電動化などに向け積極的な先行開発を推進しました。

これらの製品開発により、当社独自の基礎評価や実機試験はもちろん、可

視化・解析などの技術も飛躍的に向上しました。



ニーズを予測した先行開発

これにより、次世代の環境対応エンジンにいち早く対応できる、「技術提案型企業」としての位置付けを確立しました。

アルミニウムダイカスト製品などの構造部品に関しても大幅な軽量化や加工レス化に成功、量産化しています。

また、アルミダイカストでは業界初となる湾曲製品を鋳造する技術開発に成功し、トヨタ自動車(株)より「レクススNX200tプロジェクト表彰(技術の部)」を受賞しました。



プロジェクト表彰を受賞したターボチャージャー用エルボ

日本ガスケット(株)では、ガスケットの生産技術を応用し、抄造による樹脂製品を開発、樹脂ギヤとして実用化しました。

また、今後増加が予想されるクリーンディーゼルエンジン用メタルガスケットを開発、量産も始まっています。

グローバルな営業展開

国内外自動車メーカーへの樹脂コーティング軸受の拡販を強化、小型エンジンから大型エンジンまで幅広いシェアを獲得しました。

また、海外自動車メーカーのニーズに合わせた製品も開発し、拡販に結び付けてきました。

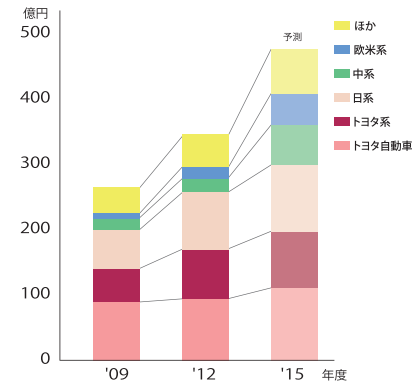


バリエーションが広がった樹脂コーティング軸受



欧州自動車メーカー向けに開発したエンジンベアリング

軸受製品の客先別売上高推移



グローバルネットワーク



生産力強化とグローバル化

グローバル市場の拡大を的確に予測し、適時・適地に的確な製品を供給することを目指し、生産能力の強化を図ってきました。

エンジンベアリングでは、国際競争力を高めた新工法ラインとして「良品廉価ライン (RRライン)」を開発、トヨタ自動車(株)より「技術開発賞」を受賞しました。

このラインは2012年に国内で稼働、海外では2015年7月PTN (インドネシア)、10月TCY (中国) で稼働を開始しています。

また、樹脂コーティングラインも2015年にTCA (北米) で稼働しており、エンジンベアリングのグローバル生産能力を拡大しています。

カーエアコン用コンプレッサ軸受では、2014年にTCK (韓国) で工場拡張を実施して軽量シューの生産能力を高めました。

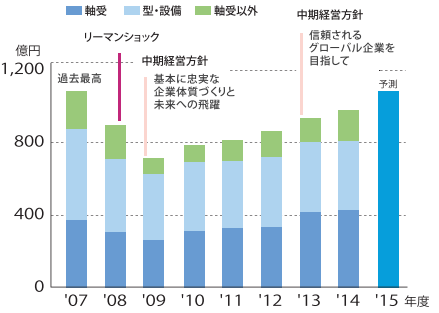
システム製品では、2015年にTCT (タイ) で新工場を建設しトヨタ自動車(株)のIMVシリーズ用エンジンに採用されたバキュームポンプの量産を開始しました。

さらなる発展に向けて

新製品開発、新工法開発、生産拠点の拡大等、当社はこれまでの取り組みにより着実に業績を伸ばしてまいりました。

2015年度では、「2013-2015年度中期経営計画」で仕込んできたプロジェクトの成果の刈り取り、新製品投入や拡販活動を進め、目標達成に向けてグループの総力を挙げて取り組んでまいります。

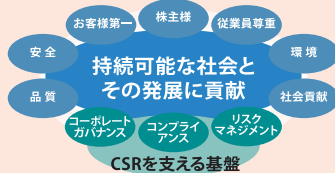
事業別売上高推移



「VISION 2015」の推進

CSRトピックス

■会社方針書に「CSR方針」を掲載



CSRの推進を図るため、今までの諸活動を包含する形で「CSR方針」としてまとめました。

■女性の活躍を推進する職場づくり

当社では従業員一人ひとりの多様性を尊重し、その能力が最大限に発揮できる職場環境づくりを目指し、人事制度の見直し、事業所内託児所「T-Kids」の開設等に取り組んでまいりました。



「T-Kids」は、会社稼働日に合わせて運営。公立の子ども園が休園の日でも預け入れできる一時保育も実施しています。

2015年8月に女性の活躍推進法も制定され、今後は女性従業員の採用比率向上や管理職比率向上に向けたリーダー意識の醸成、多様性が尊重されるような職場風土改革にも取り組んでまいります。

■軸受生産能力を拡大

6月より北米のタイホウコーポレーションオブアメリカ(TCA)が樹脂コーティングエンジンベアリングの生産を開始しました。樹脂コーティングエンジンベアリングを海外生産するのはTCAが初となります。

これによりTCAの全生産量の約30%が樹脂コーティング付きとなる予定です、今後さらに生産拡大を目指します。

新興国の価格競争力強化を目指して開発された良品廉価ライン(RRライン)を海外拠点に導入しました。7月よりインドネシアのタイハウヌサンタラ(PTN)でRRラインによる生産を開始。また10月には中国の大豊工業(煙台)有限公司(TCY)でもRRラインによる生産を開始しています。



中国のアルミ軸受素材メーカー常州恒業軸瓦材料有限公司(WBM)では、今後品質と生産性を国内レベルに引き上げ、TCYのRRラインとともに中国国内の軸受一貫生産体制を築き、さらなる軸受シェア拡大を目指します。

■グループ内の業務再編

2015年4月より大豊グループ内の成型業務を大豊精機(株)に移管・統合いたしました。

大豊精機(株)へ成型業務を集約することで、グループ内リソースの効率化を図り、今後見込まれるプレス金型の需要増加に対応していきます。

また精密金型と設備を一式でお客さまへ提案することで拡販につなげていきます。

治具製造を行っている(株)ティーイーティーにはグループ内で使用する治具の製造を委託し内製化を進めています。

このように業務再編することでグループ力最大化を図り、造機・造型分野でさらなる拡大を図ってまいります。



持続的成長を目指して

■「VISION 2020」の策定

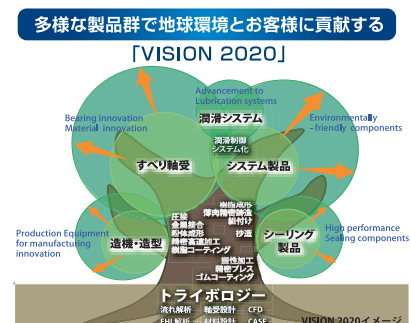
VISION 2015に続く「VISION 2020」を策定、その目標を「多様な製品群で地球環境とお客さまに貢献する」と掲げ、今まで以上に環境対応技術の革新に主眼を置きます。

これによりグループ全体の持続的成長を目指します。



■技術革新

当社のコア技術であるトライボロジーを木の根とし、幹となる製造・生産技術をさらにたく成長させ、すべり軸受、システム製品、シーリング製品、造機・成型製品などの果実を着実に増やしていきます。



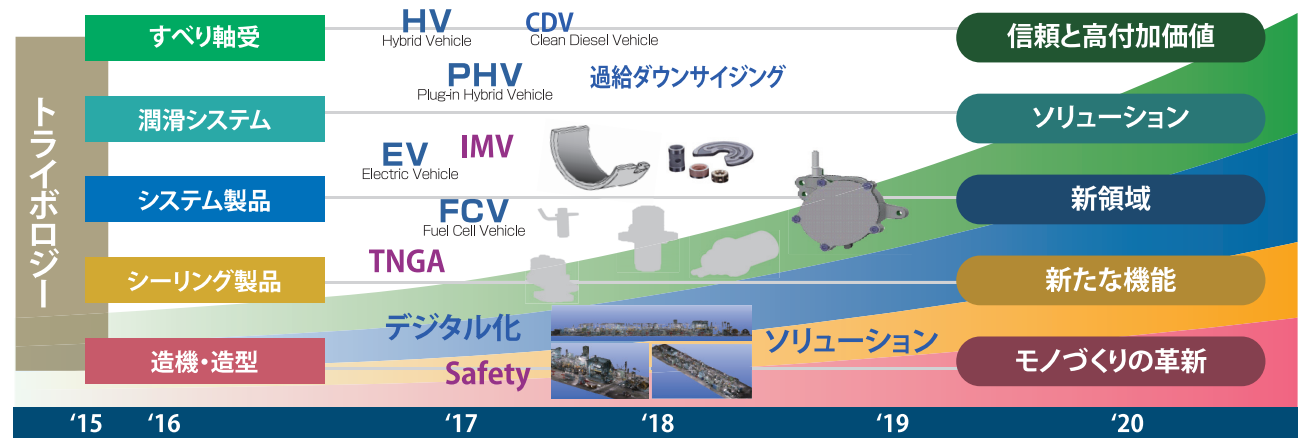
■新・中期経営計画を始動

2016年から3カ年で展開する新中期経営計画は、「VISION2020」を着実に実現していくため[ゆるぎない「信頼と技術」でグローバルに躍進]を方針とし、2016年度より展開する予定です。

具体的目標や戦略については、2016年に公表する予定です。



「VISION 2020」ロードマップ



決算概要

連結貸借対照表

単位:百万円

科目	当第2四半期連結会計期間末 2015年9月30日現在	前連結会計年度末 2015年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	45,430	46,408
現金及び預金	9,577	12,885
受取手形及び売掛金	18,687	17,855
たな卸資産	10,516	9,435
繰延税金資産	1,437	1,406
その他	5,444	5,051
貸倒引当金	△ 233	△ 226
固定資産	55,760	57,536
有形固定資産	49,162	49,718
建物及び構築物	12,663	12,549
機械装置及び運搬具	18,042	15,718
土地	13,422	13,434
建設仮勘定	3,227	6,470
その他	1,806	1,545
無形固定資産	1,143	1,505
投資その他の資産	5,454	6,311
合計	101,191	103,944

【流動資産】当第2四半期連結会計期間末における流動資産は45,430百万円であり、前連結会計年度末に比べ977百万円減少しております。現金及び預金の3,307百万円の減少、たな卸資産の1,080百万円の増加、受取手形及び売掛金の831百万円の増加が主な要因であります。

【固定資産】当第2四半期連結会計期間末における固定資産は55,760百万円であり、前連結会計年度末に比べ1,775百万円減少しております。建設仮勘定の3,243百万円の減少、投資有価証券の477百万円の減少、のれんの407百万円の減少、機械装置及び運搬具の2,323百万円の増加が主な要因であります。

科目	当第2四半期連結会計期間末 2015年9月30日現在	前連結会計年度末 2015年3月31日現在
【負債の部】		
流動負債	28,330	28,478
支払手形及び買掛金	12,776	13,838
短期借入金	—	361
未払費用	5,213	4,892
その他	10,341	9,386
固定負債	13,690	17,460
長期借入金	10,855	14,301
退職給付に係る負債	1,690	1,854
その他	1,144	1,304
負債合計	42,021	45,938
【純資産の部】		
株主資本	54,856	53,517
資本金	6,480	6,479
資本剰余金	9,949	9,948
利益剰余金	38,617	37,280
自己株式	△ 192	△ 191
その他の包括利益累計額	3,446	3,642
その他有価証券評価差額金	1,218	1,521
為替換算調整勘定	2,696	2,597
退職給付に係る調整累計額	△ 468	△ 475
新株予約権	98	69
非支配株主持分	768	776
純資産合計	59,170	58,006
合計	101,191	103,944

【流動負債】当第2四半期連結会計期間末における流動負債は28,330百万円であり、前連結会計年度末に比べ147百万円減少しております。支払手形及び買掛金の1,061百万円の減少、設備未払金の2,398百万円の減少、電子記録債務の2,173百万円の増加、1年内返済予定の長期借入金の1,284百万円の増加が主な要因であります。

【固定負債】当第2四半期連結会計期間末における固定負債は13,690百万円であり、前連結会計年度末に比べ3,769百万円減少しております。長期借入金の3,446百万円の減少、退職給付に係る負債の163百万円の減少、繰延税金負債の92百万円の減少が主な要因であります。

【純資産】当第2四半期連結会計期間末における純資産は59,170百万円であり、前連結会計年度末に比べ1,164百万円増加しております。利益剰余金の1,337百万円の増加、為替換算調整勘定の99百万円の増加、その他有価証券評価差額金の302百万円の減少が主な要因であります。

連結損益計算書

単位:百万円

科目	当第2四半期連結累計期間 2015年4月1日から 2015年9月30日まで	前第2四半期連結累計期間 2014年4月1日から 2014年9月30日まで
売上高	52,686	49,006
売上原価	42,964	40,357
販売費及び一般管理費	6,837	6,387
営業利益	2,884	2,260
営業外収益	159	181
営業外費用	197	203
経常利益	2,846	2,237
特別利益	4	13
特別損失	330	126
税金等調整前四半期純利益	2,520	2,125
法人税、住民税及び事業税	784	542
法人税等調整額	73	161
四半期純利益	1,661	1,421
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	10
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,660	1,411

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	当第2四半期連結累計期間 2015年4月1日から 2015年9月30日まで	前第2四半期連結累計期間 2014年4月1日から 2014年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,468	3,702
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,682	△ 4,549
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,188	△ 4,885
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 40	△ 94
現金及び現金同等物の増減額	△ 3,443	△ 5,827
現金及び現金同等物の期首残高	12,711	17,852
新得連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	160	—
現金及び現金同等物の期末残高	9,429	12,024

中間配当金

2015年10月29日開催の取締役会において、2015年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対して行う中間配当金につき、次のとおり決議しました。

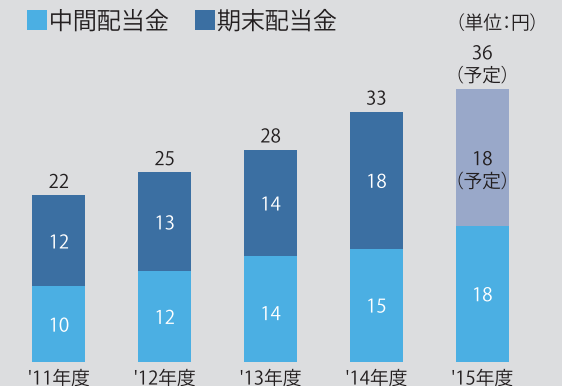
①中間配当金

1株につき18円

②効力発生日ならびに支払開始日

2015年11月26日

1株当たり年間配当金



株主の皆さまへの利益還元と事業の成長および経営基盤の強化のための内部留保を総合的に勘案し、長期にわたり安定的な配当の継続を基本に考えています。

中間配当金を昨年よりも増配し、18円とさせていただきます。なお、年間配当金は36円を予定しています。

株式概況 (2015年9月30日現在)

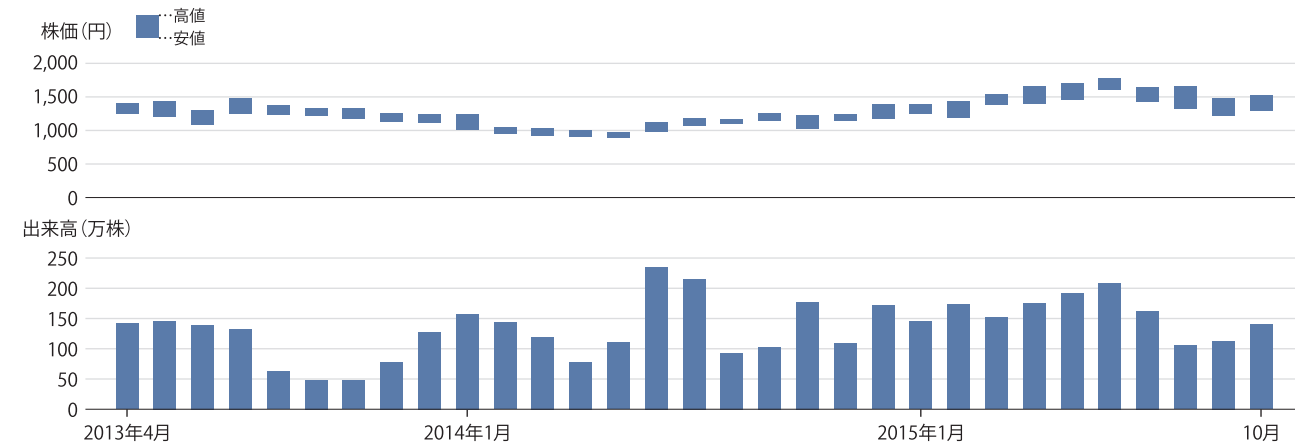
株式の状況

発行可能株式総数	48,400千株
発行済株式の総数	28,844千株
株主数	4,181名

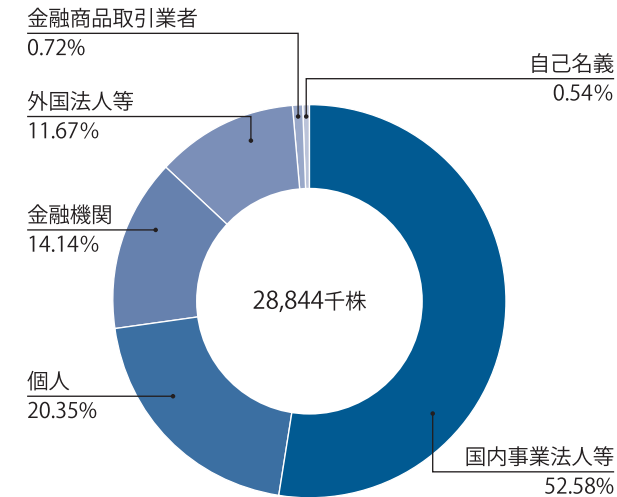
大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)
トヨタ自動車株式会社	9,676
株式会社豊田自動織機	1,427
日本発条株式会社	1,344
豊田通商株式会社	1,071
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	992
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	767
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	502
大豊工業従業員持株会	449
野々山秀夫	305
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	298

株価の推移



所有者別株式分布状況



会社概況 (2015年9月30日現在)

会社概要

創 業 1944年12月
 資 本 金 64億8千万円
 従 業 員 数 連結:4,120名 単体:1,650名
 本社所在地 〒471-8502
 愛知県豊田市緑ヶ丘3-65
 TEL (0565) 28-2225 (代表)

事 業 内 容 軸受および軸受素材、ダイカスト製品、
 ガスケット製品、システム製品、設備、
 金型などの製造販売

事業所および営業所

本社/本社工場(愛知県豊田市)
 細谷工場(愛知県豊田市)
 篠原工場(愛知県豊田市)
 九州工場(鹿児島県出水市)
 幸海工場(愛知県豊田市)
 東京営業所(東京都中央区)
 大阪営業所(大阪府大阪市)

国内子会社

大豊精機株式会社(愛知県豊田市)
 日本ガスケット株式会社(愛知県豊田市)
 大豊岐阜株式会社(岐阜県可児郡御嵩町)
 株式会社ティーイーティー(愛知県春日井市)
 株式会社タイホウライフサービス(愛知県豊田市)
 株式会社タイホウパーツセンター(岐阜県土岐市)

主な海外子会社

タイホウ コーポレーション オブ アメリカ(アメリカ)
 タイホウ ヌサンタラ株式会社(インドネシア)
 タイホウ コーポレーション オブ ヨーロッパ 有限会社(ハンガリー)
 韓国大豊株式会社(韓国)
 大豊工業(煙台) 有限公司(中国)
 タイホウ コーポレーション オブ タイランド(タイ)
 常州恒業軸瓦材料有限公司(中国)

取締役

代表取締役社長	杉原 功一
代表取締役副社長	村井 茂
代表取締役副社長	近藤 隆彦
専務取締役	川上 真也
専務取締役	楠 隆博
取締役	木村 好次

監査役

常勤監査役	佐藤 章雄
常勤監査役	神谷 荘司
監査役	白柳 正義
監査役	杉山 雅則
監査役	安田 益生

執行役員

常務執行役員	原田 淳
常務執行役員	川治 豊明
常務執行役員	河合 信夫
常務執行役員	佐藤 光俊
常務執行役員	高間 建一郎
執行役員	大河内 光人
執行役員	吉井 利治
執行役員	岸 吉信
執行役員	出崎 亨
執行役員	粟津 滋喜
執行役員	杉木 明

■ 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
お問い合わせ先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 名古屋証券取引所市場第一部
ホームページ	http://www.taihonet.co.jp/

● 株式関係のお手続きについて

1. 株式関係のお手続きにつきましては、お取引先の証券会社までご連絡ください。また、特別口座で管理されている株につきましては、特別口座管理機関の三菱UFJ信託銀行までお問い合わせください。
2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



お問い合わせ先 TEL (0565) 28-2225 (代) 総務人事部広報グループ